



# 「ひとが育つまち益田」の実現に向けて

## 「ひとづくり」の取組と若手職員の想い

Vol. 4

市では「ひとづくり」を重要な要素として「ひとづくり推進本部」を設置し、3つの部会で取組を推進しています。

今回は「未来の担い手」部会を担当する連携のまちづくり推進課に所属する若手職員が、取組内容の紹介と「ひとづくり」に対する想いを語ります。

### ひとづくりに関するどのような取組を担当していますか

市内で活動している市民団体のサポートをしています。地域自治組織やNPO法人、市民活動団体など、さまざまな団体と関わりながら地域づくりに取組んでいます。地域づくりの大変さを感じることもありますが、世代を超えて多くの方に「楽しさ」や「いいな」を感じてもらえるように心がけています。

### ひとづくりの取組に対する想いを教えてください

皆さんは「地域づくり」にどんなイメージを持っていますか。私は「たくさんの方々が詰まったもの」だと思っています。今年度、地域づくりの事業に初めて企画から参加しました。その過程で、世代や立場を超えての対話が新たな発見や学びにつながり、また、この事業に関わった方々と新たに関係を築くことができました。この体

験はすべて自分の成長につながるものと思います。多くの人と関わり、つながりをつくることのできる「ひと」や「場所」がある益田は、とても魅力的です。事業を通して、地域づくりに「ワクワク」を感じる人を一人でも多く増やしたいと思っています。

### これからどのような取組をしたいと思いますか

「益田っていいな」と思う人を増やすことを目標に取組んでいきます。地域活動に参加する中で「いいな」と思う瞬間がたくさんあります。「ここのご飯美味しい」「この人面白い」など、どんなことでもいいと思います。小さな発見や感動、体験が積み重なって「愛着」に変わると思います。これからも、もっとたくさんの方々の益田の「いいな」を見つけて多くの人と共有し、みんなが「ワクワクが絶えない益田」をつくっていきたいです。

5年後、10年後に自分が「いいな」をどれだけ見つけられているか、とても楽しみです。



豊川地区での地域づくり活動

問 市政企画課 ☎ 31・0121

### 日本遺産のまち益田の歩き方

## 最終回 高津川と益田川

### 【問い合わせ先】

益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会  
文責：市文化財課 ☎ 31-0623

中国山地を水源とし、益田平野から日本海に注ぐ高津川（匹見川を含む）と益田川。2つの河川はさまざまな恵みをもたらし、益田の歴史に深く関わってきました。豊富で清らかな水が育む鮎、ツガニやワサビなどは時代を問わず益田の特産品です。戦国時代には領主益田氏が大名の毛利元就に鮎と・うるか（鮎の内臓の塩辛）を振る舞いました。

また、益田平野の田畑は高津川や益田川の水を使って拓かれました。横田町の剣先で取水され横田町と安富町を広く潤す水路や、東町の萬福寺のあたりで取水され乙吉町や下本郷町まで続く水路は、その歴史の古さが近年注目されています。

中世の益田平野では、高津川は益田川に合流しており、砂州の発達とあわせて、河口域が潟湖のようになっています。この地形は、日本海の強風と荒波を避ける天然の良港となっており、多くの船が入ってきました。湖岸に港町が相次いで成立し、益田は日本海交易により繁栄しました。

また、2つの河川は、日本海と内陸部をつなぐ役割を果たしました。匹見の縄文時代の遺跡群か

らは、大分県姫島産の黒曜石や新潟県糸魚川産の翡翠製品が出土しています。また、美都町仙道の東仙道土居遺跡や三谷の粟島原遺跡、丸茂の森下遺跡、匹見町澄川の山根ノ下遺跡、三葛の殿屋敷遺跡などの中世の遺跡からは、当時の海外の高級な陶磁器などが出土しています。

そして、内陸部からは中国山地の豊富な材木と都茂鉾山などの鉱物資源が川下しされ、河口部の港から国内外へと輸出されたと考えられています。

高津川と益田川が益田の歴史をより魅力的なものにしてきました。



高津川